

# 1月の植物

## オモト（ユリ科）

学名： *Rohdea japonica* (Thunb.) Roth

オモトの葉は1年を通して青々としていることから、漢字で「万年青」と書き、めでたい植物、縁起の良い植物として、古くから珍重されてきた日本原産の多年草です。

暖地の林下に生え、葉は先の尖った長楕円形をしており長さ 30~50 cmほどで厚く光沢があります。春から初夏にかけて1本の花穂に多数のクリーム色の花を咲かせます。オモトは最低でも4年以上の株でなければ花は咲かず、しかも毎年咲くとは限らないそうです。その後、約 1 cmほどの丸い果実が形成され、秋にはオレンジ色に熟します。

慶長 11 年、徳川家康公がオモトを床の間に飾って江戸城に入城したという故事は有名です。そのためか引越し祝いの品などとして広く知られるようになりました。オモトは江戸時代から品種改良が進み、昭和の初頭には愛好者団体も発足し、斑入り、葉の幅など、それぞれの個性をもった多くの品種が誕生しました。特に昭和の頃にはオモトを持つことが“富の象徴”としてもてはやされ、オモトの鉢植えが玄関先に並べられていた家もありました。中には“家が一軒建つ”と言われるような高値が付くオモトもあったそうです。

今では、育てやすい観葉植物の1つとして、鉢植えなどが売られています。すっかり身近かになったオモトですが、人にも歴史があるように、植物にもいろいろなエピソードや歴史があることをオモトは教えてくれます。

新年を迎えるにあたり、オモトの変わらぬ姿のように、皆様にとって穏やかで心豊かな日々が続くことを願っています。

(文 鬼塚敦美)



### 【参考文献】

山野草の名前がわかる事典（大嶋敏昭著・成美堂出版・2005）

オモトの実  
Wikipedia より